

ビッグデータにより生活道路の安全を確保 ～対症療法型から科学的防止型に～

【交通事故の状況】

■自動車乗車中はG7で最も安全
歩行者・自転車乗車中はG7で最下位

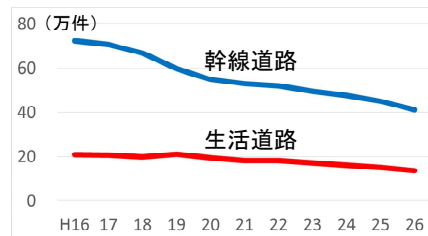
【人口10万人あたり交通事故死者数の比較】



出典) OECD/ITF(2014) Road Safety Annual Report 2014

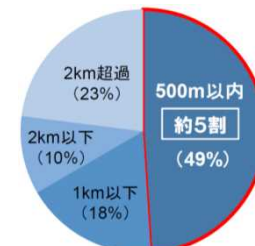
■生活道路の事故件数は、
幹線道路と比較し減少率が小さい

【道路種別の交通事故件数の推移】



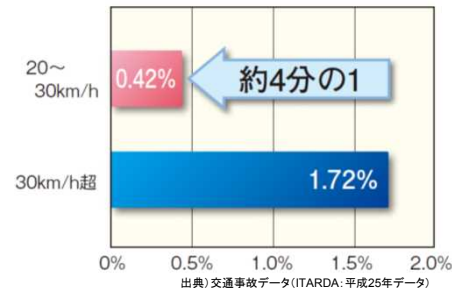
■約半数が
自宅から500m以内で発生

【自宅からの距離別死者数(歩行者・自転車)】



■衝突速度が30km/hを超えると
致死率が急激に上昇

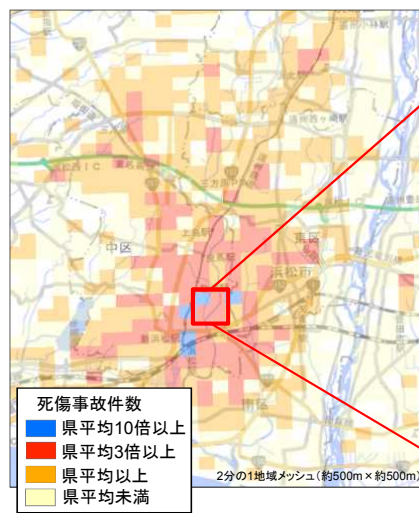
【生活道路の速度別の致死率】



平成28年度から全国約**100**エリアを皮切りに対策を実施

<事故データによる抽出>

■事故データを活用し、
対策候補エリアを抽出



<ビッグデータを活用した生活道路対策>

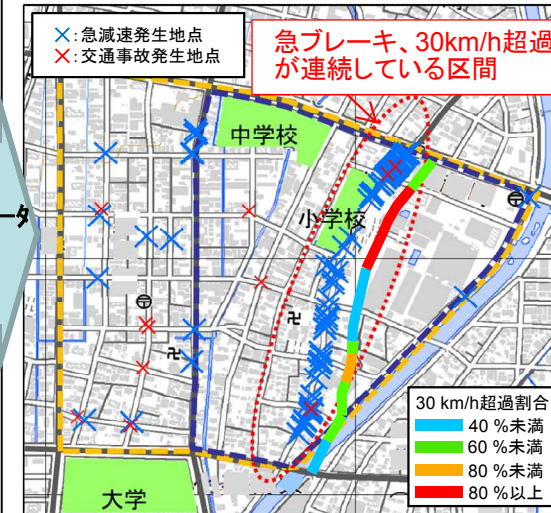
[これまで]

■事故発生箇所に対する
対症療法型対策



[今後]

■速度超過、急ブレーキ多発、抜け道等の
急所を事前に特定



効果的な
速度低減策を実施

[対策例]



ハンパ



狭さく